望岳山荘にて　台南から松本へ　市民タイムス-2000.01.14

リレーコラム

望岳山荘にて

台南から松本へ

―中嶋嶺雄

すでに多くのメディアにも報じられたけれど、本年の、そして今回が最後となる第十二回「アジア・オープン・フォーラム」が、十月末から十一月初めにかけて松本市で開かれることが決定した。「アジア・オープン・フォーラム」は国交のない台湾と日本の間で、高いレヴェルの知的交流の場が是非必要だとの認識から生まれた民間の国際フォーラムであり、一九八九年六月に第一回台北会議が開かれて以後、米・仏・中国・ロシア・香港・韓国などからの外国人ゲストも交えて年一回、日本と台湾で交互に開かれてきている。台湾での開催に際しては、李登輝総統が自ら出席して挨拶し、会議後に日本側代表団全員と日本語で長時間懇談するのが恒例になっている。台湾側団長は、中国との交渉の窓口・海峡交流基金会の董事長で台湾財界の最高指導者である辜振甫氏がつとめている。日本側は国鉄民営化や民間政治臨調の責任者として知られる住友電工相談役の亀井正夫氏が団長をつとめ、副団長は金森久雄・日本経済研究センター顧問、私が秘書長をつとめてきた。

当初は台湾問題がいわばタブーであり、それだけに苦労も多かったが、今回の台湾大地震への日本国民の暖かい反応にも示されたように、この十年余りの間に―それは同時に李登輝体制の十二年間でもあるが―雰囲気が大きく変わった。フォーラムも回を重ねるごとに相互の理解が深まり、内容が濃くなって、政治・経済、国際関係はもとより、文化や技術文明に関するセッションも毎回設けている。例えば、一昨年の松江会議での「『黒潮文明経済圏』の歴史と文明」に関する日本側・平川祐弘氏（東大名誉教授）と青木保氏（政策科学大学院教授）との激しい論争や去る十二月の台南会議での台湾人のアイデンティティーに関する台湾の若手政治学者・劉義周氏（国立政治大学副教授）の報告、日本側の川勝平太氏（国際日本文化センター教授）の問題提起にたいする共感や反論なども、きわめて印象深いものであった。

このようなフォーラムなので、学界・財界・政界から多くの第一線の人々の参加があり、新聞などでの報道も多いためか、近頃は地方の諸都市から是非誘致したいとの声も強い。一昨年の松江会議は、松江市と島根県の熱心なお誘いによって実現したものであり、会議後の宍道湖と松江城、出雲大社などの観光や玉造温泉での宿泊もさることながら、同時通訳施設完備の中規模の国際会議場「くにびきメッセ」（島根県立産業交流会館）が実に素晴らしかった。今回も昨年同様に、別府温泉や湯布院をもち、平松守彦知事自身が当フォーラムのメンバーとして第三回台北会議で一村一品運動を提唱された経緯からして大分市へとの声もあったが、去る十二月三日夜の日台双方の世話人会で松本開催が正式に決まったのであった。日本側世話人代表である私が、岳都・松本はまた学都であり楽都でもあることを詳しく説明したのはいうまでもない。辜振甫団長は、松本開催の決定に対して、「中嶋先生の故郷である松本市は風光明媚な文化都市であり、そこで過ごせる数日間は、私の生涯で最後の機会になるでしょう。今から楽しみにしております」と語られた。部屋の外で待機していた松本商工会議所コンベンション・ビューローの赤羽勝君にこの朗報を伝え、私は早速、松本市の有賀市長と国際電話でお話した。

今回の台南会議では会議第一日の夜、台南市による歓迎晩餐会が市政府の屋外ホールで開かれた。するとどうだろう。昨夜松本開催が決まったばかりだというのに、舞台の正面には台南の孔子廟と並んで松本城のカラー写真が大きくイラストされているではないか。そこで私は赤羽君を壇上で紹介し、松本からのメッセージを語ってもらったのだが、このような台南市の心尽しには感激した。舞台では台南市の小学生オーケストラが「運命」を演奏したり、日本の昔懐かしい唱歌を次々に奏でてくれた。また会議中の夜は、台湾が世界に誇るマイクロチップのメーカー、奇美実業の許文龍氏がご自宅に一行のうちの何人かを招待し、自慢のコレクションのストラジバリウスやガリネリウスの名器で自らヴァイオリンを奏でて日本の歌をうたわせ、私にも弾かせてくださった。それだけに松本では、是非スズキ・メソードの立派な演奏を披露しなければならないと思っている。いずれにせよ、「アジア・オープン・フォーラム」が有終の美を飾れるよう松本市の皆様にもご協力をお願いするとともに、出来れば市民の皆様にも討論を傍聴していただきたいと願っている。

台南会議後に台北の総統府で日本側代表団全員が李登輝総統にお目にかかったとき、総統は引退後の松本会議に出席して台湾民主化の歴史的経験について話したい旨を表明された。このような希望が実現するかどうかは、ひとえに日本外交の主体性いかんにあるといえようが、その実現の可能性も決して低くはないと私は考えている。

（東京外国語大学長＝松本市出身）